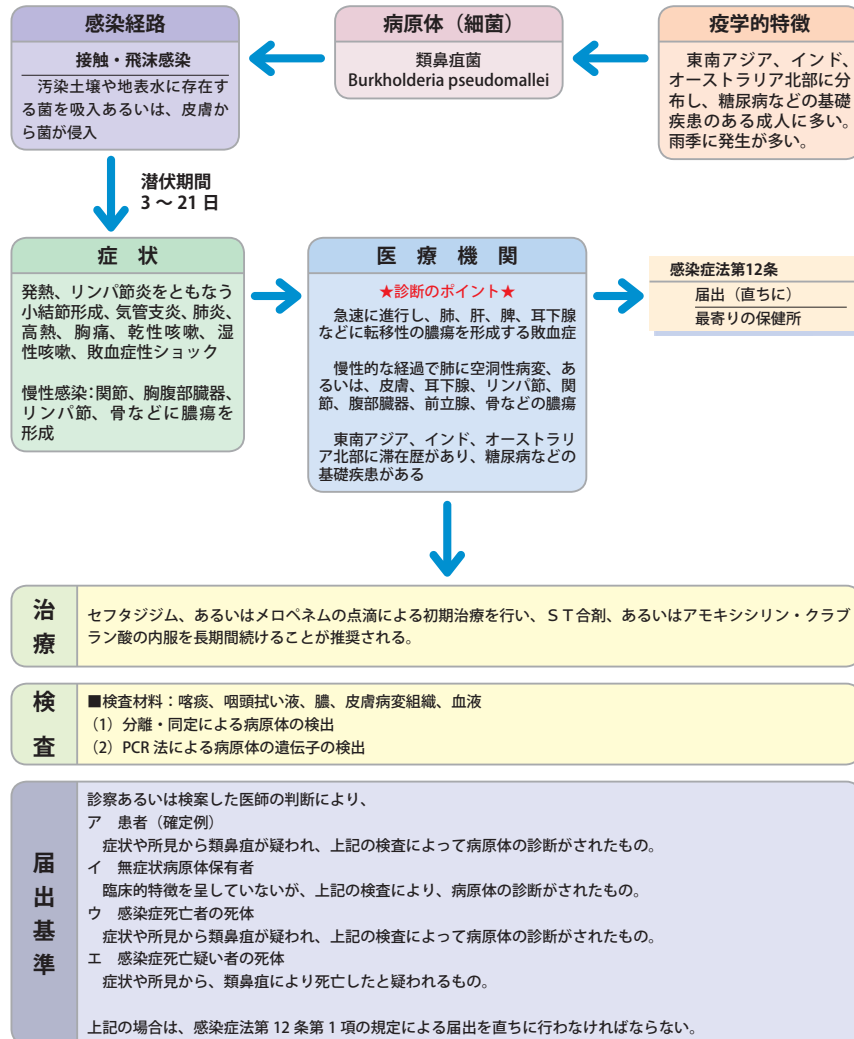


(40) 類鼻疽 ……四類感染症

Meliodosis



参考文献

- (1) Melioidosis. Manson's Tropical Diseases 23rd edition. 2014.
- (2) Workshop on treatment of and post exposure prophylaxis for *Burkholderia pseudomallei* and *B. mallei* infection, 2010. Emerg Infect Dis 2012;18:e12.
- (3) 倉田季代子 ベトナムで感染した類鼻疽の1例 IASR 2010 Vol. 31 107-108.

発生状況

東南アジア、インド、北オーストラリアでの発生報告が多い。南太平洋地域、アフリカ、ラテンアメリカ、中東でも報告が認められる。糖尿病、腎不全、慢性呼吸器疾患などの基礎疾患を有する患者に発症が多い。雨季、特に台風の後などに患者発生の多いことが知られている。

臨床症状

敗血症型メリオイドーシスは急速に進行し、肺、肝、脾、耳下腺などに転移性の膿瘍を形成することが多い。肺炎が契機となることが多く、通常は高熱を伴い、胸痛を生じ、咳嗽が認められる。局所型メリオイドーシスは慢性の経過を示し、肺に空洞を伴う病変を形成しやすく、肺結核に類似する。そのほかに、皮膚、耳下腺、リンパ節、関節、腹部臓器、前立腺、骨などに膿瘍を形成することがある。

検査所見

感染患者の喀痰、咽頭拭い液、膿、皮膚病変組織、血液から、病原体を分離・同定できる。また、PCR法により、病原体の遺伝子が検出可能である。

病原体

類鼻疽菌 (*Burkholderia pseudomallei*)

感染経路

主な感染経路は、土壌と地表水との接触感染であるが、病原体を含んだ粉塵、飛沫の吸入や飲水などによることもある。ヒト-ヒト感染は通常起こらない。

潜伏期

3～21日であるが、1年以上に及ぶこともある。

行政対応

診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

拡大防止

疾患常在地では、土壌、水などと直接接触を避け、マスク等を使用して、粉塵、飛沫の吸入を避ける。
生水を飲まないようにする。

治療方針

セフトラジム、カルバペネム系抗菌薬を初期に少なくとも2週間使用する。その後、ST合剤、あるいはアモキシシリン・クラブラン酸の長期内服による除菌が推奨される。投与期間は12～20週間が目安である。